

マスコミ各位

平成30年6月21日（木）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

県内のRSウイルス感染症患者報告数が過去最多となっています ～乳幼児のいる家庭、保育園等ではご注意を！！～

1 概要

全国的に11～1月に流行するRSウイルス感染症は、本県では夏場に流行する傾向を示しますが、第24週（6月11日～6月17日）の1医療機関あたりの報告数が県内で4.56人（定点医療機関34カ所、報告数155人）となり、医療機関におけるRSウイルス抗原検査の保険適応対象が拡大された2011年以降の報告数としては、最多を示しています。これから夏休みとなり外出する機会が増えるため、今後、感染が更に拡大する可能性があります。

感染予防策は、インフルエンザと同様に「手洗い」や「咳エチケット」などが重要となりますので、マスクの皆様も呼吸器感染症対策の周知について、改めてご協力いただきますようお願いいたします。

なお、第24週における保健所別定点あたり患者報告数は、北部保健所が7.33人で最も多く、次いで八重山保健所6.50人、那覇市保健所6.43人、南部保健所4.63人、宮古保健所4.00人、中部保健所2.50人の順となっています。

2 RSウイルス感染症：5類感染症

RSウイルスを起因病原体とし、会話をした際等に飛び散るしぶきを浴びて吸い込むことや感染者との濃厚接触、ウイルスに汚染された手指や物品を介した接触により感染する。年齢を問わず繰り返し再感染する。

臨床症状：成人では風邪様症状を起こす程度であるが、生後数週から数カ月の乳幼児、基礎疾患のある児、さらには高齢者が感染した場合は、肺炎などの下気道疾患等、重篤な症状を起こす危険性が高いため、特に注意が必要である。

潜伏期：2～8日

治療：対症療法

3 RSウイルスの流行状況

RSウイルス患者情報は感染症発生動向調査事業において、県内の小児科34定点医療機関の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国約3,000カ所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

定点当たりの患者報告数（直近の7週間）

	週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週
		4/30 ～5/6	5/7 ～5/13	5/14 ～5/20	5/21 ～5/27	5/28 ～6/3	6/4 ～6/10	6/11 ～6/17
県	患者数	78	81	63	116	120	124	155
	定点当	2.29	2.38	1.85	3.41	3.53	3.65	4.56
全国	患者数	703	803	951	949	911	944	
	定点当	0.23	0.25	0.30	0.30	0.29	0.30	

3 呼吸器感染症にかからないために

（流行時の予防方法）

- ① 食事の前や帰宅後には、必ず「手洗い」をしましょう。
- ② バランスよく栄養を摂取し、十分な睡眠をとりましょう。
- ③ 「咳エチケット」を実行しましょう。
- ④ 室内の換気に気をつけ適切な湿度を保ちましょう。
- ⑤ 流行中は、不要不急の外出を避けましょう。

4 呼吸器感染症にかかってしまったら

- ① かかりつけ医にまず相談、受診しましょう（救急医療をつぶさない）。
- ② 感染を広げないために、会社や学校を休み、安静にしましょう。
- ③ マスクを着用し、咳やくしゃみをする時は「咳エチケット」を守りましょう。
- ④ 乳幼児のいる家庭や保育園等では、お子さんが発症した場合、最初はただの風邪と違っていても呼吸状態に注意して下さい。

5 参考

厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html